



目次

会長挨拶	1
就任挨拶	1
退任挨拶	2
県退職校長会総会報告	2
会務報告	2
全連退総会報告	3
生き生きライフ	3・4
現職校長会情報	4

題字	19年度入会 安藤好子 (元 名古屋・野立小)
絵	22年度入会 石川 純 (元 名古屋・那古野小)

会長あいさつ



三筋の涙に想う

会長 内田 久幸

「十年後に来てください。ここは必ず復興しています。」これは、被災した若い女性が外国向けのインタビュアーに答えた一言です。復興への力強い言葉に、一筋目の涙が頬を伝いました。

今や復旧・復興とその後の改革が同時進行すべき時です。しかし、復興より原発の収束を先決とし、復興のめどが立たないとの報道に耳を疑いました。一刻の猶予も許されない状況です。数十年後の日本の在るべき姿を再創造するとし発足された復興構想会議に期待したいものです。

二筋目の涙は、両親を失った子どもの背中が語る姿、その胸の内を慮った時でした。地震後の大津波からの恐怖心、

産まれ育った家や街の流失、その上両親に二度と会えない無念さは図り知れません。

この映像と前後して涙腺が緩んだのは、砂川恵理歌さんの『一粒の種』を耳にした時でした。この曲は、闘病に耐えた末の患者の最期の言葉、「一粒の種でいい 人間の種になって生きていたいよ……」を心に秘め、看護師の高橋尚子さんが作詩されたものです。曲の結びは、「一粒の種にちっちゃくていいから 命の種に必ずなるから すぐそばにいるから」とあります。残された一粒の種が、美しい花を咲かせ実を結ぶことを願ってやみません。

この折、私たちにできることは何でしょうか。まず快適な生活も安全な生活もでなく、命を大切にしたい安全優先の生活の輪を拡げていくことだと思えます。

次に、御厨貴さん（復興構想会議副議長）が訴えられた「スローライフと公共への貢献」に力を注ぐことだと考えます。そこで、本年度は、本会と各支部との一体化の方途を探り、諸活動実施の一步を踏み出すことを願っています。格別のご協力をお願いします。

就任あいさつ



後輩を応援しよう

副会長 山田 政宏

退職して七年、物忘れが多くなり、文章を書いたり、人前で話したりすることが苦手になるなど、老いを感じるこの頃ですが、体はいたって元気です。

就任あいさつ



会の発展と会員の健康と

副会長 中川 正明

中川 正明

東日本大震災発生から一週間後、三月十八日に予定されていた二十三年度総会を取りやめになり議案は郵送により議決がなされました。

私は退職して六年間、常任

私どもの仲間では、偶数月の第一金曜日に自由参加での「飲み会」を持っています。毎回十五人前後が集まって来ます。そこでの話題は「健康・政治・教育」などで自分の意見を言い合っています。特に自分たちがお世話になった教育の話題では、昨今の現状を心配する意見が多く出ます。教員の待遇、新指導要領、教師仲間のあり方など、課題が山積しており、少しでも後輩を支え、応援していかなければという思いです。

今回、副会長に就任することになりました。組織は大切です。微力ですが日頃の皆様の気持ちを反映できるようにがんばります。

理事として本会の活動に微力ながら携わって参りましたが、この度、副会長という大役を仰せつかりました。この一年、会長の内田久幸先生の思いを正面に受け止め、本会の活動目標に向かって精一杯努力し、会員の皆様に少しでも喜んでいただけるような活動にしていきたいと考えております。皆様の一層のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、東日本大震災発生から二カ月、被災地域の日も早い復興を祈願し、会員の皆様のますますのご健勝を祈念して就任のご挨拶にさせていただきます。

平成二十三年年度

全国連合退職校長会
総会報告副会長
牧野 茂昭

平成二十三年度第四十七回全国連合退職校長会総会が、六月八日（水）、東京両国の「江戸東京博物館」で開催された。

本県からは前日の理事会に引き続き内田久幸会長と山田政宏・高木久嗣両副会長と私の四名が参加した。

総会に先だって、去る三月の東日本大震災による犠牲者の方々と、昨年十月に急逝された廣瀬久全連退会長のご冥福を祈り黙とうを捧げた。

新しく承認された戸張敦雄会長は東北地方では多数の会員が犠牲になり、避難所生活を余儀なくされている方も多

いので、会費を免除すると話された。また、全連退が教育関係諸団体と共に取り組んだ小学校一年生の学級定員を縮小することが国会で承認されたと喜びの報告があった。

少人数学級実現への第一歩を踏み出したことで、今年度は更に小学二年以上の学級定員減をめざし、今後とも存在

感のある全連退として精進したいと力強く締めくくられた。

来賓祝辞は高本文科相代理の太田視学官から大地震後の日本人の行動を見た諸外国から、わが国の人づくりについて高い評価を得たと紹介があった。今後とも学級編制基準の引き下げに努めていきたいと力強い言葉をいただいた。

議事では、二十二年度の会務報告、決算報告、二十三年度の事業計画と予算が議決された。

総会の締めくくりは、教育諸条件の整備・充実に期すこと、年金・高齢者医療・介護保険等の改善・充実、会員の福祉の増進に資する要望を行うこと、学校支援事業への協力に努めること等、五項目の宣言を決議した。

午後は元NHK解説委員の野原明氏の「ジャーナリストから見た日本の教育」と題するご講演を拝聴した。



生き生きライフ

和楽器で心身の癒し

18年度入会 小林 聡子
(元 名古屋・表山小)

退職後、教える側を卒業したことを機に、学ぶ側にと箏と三絃に再々挑戦しています。幼い頃に入門し、楽しく手ほどきを受け、初めて舞台上で演奏した記憶は今でも懐かしい遠い昔の思い出として残っています。

大学から再度教室に通い、就職後も三十代半ばまで続けることができました。仕事をしながらの稽古と演奏会は大変でしたが自分でも驚くほど技術が身につきました。

四十代から退職まで稽古から遠のき、そのためか現在はい地歌を歌いながら、箏・三絃を弾くという感覚が十分戻ってきません。手法や曲想などなかなか満足に弾くことはできませんが、演奏会に向けて心一つに気を合わせ練習する仲間がいることはとても幸せです。加えて根気よく指導していただいている親師匠様に感謝しています。演奏会当日の緊張感と発表後の充足感

にもなっています。

また、素晴らしい演奏を耳にし、出来ないながら新たな目標をもって稽古に取り組むことができます。

この六月で六十六歳になりました。六月六日を機に、指先のリハビリと心身のバランスを程よく保ちながら年相応の活動を続けるためにも、和楽器を楽しみ、稽古に精進していきたいと思っています。

社会が多様化した中で、子どもたちにはもちろん高齢者にもまで和楽器のよさ・不思議な楽しさを伝えていくためにボランティア活動も含め、微力ながら何かできれば幸いに思います。

二つの趣味ますます

23年度入会 林 邦夫
(元 豊田・中山小)

退職後の最大の楽しみは、二つの趣味、バレーボールと竹細工を中心据えた生活をするものでした。退職して二ヵ月、工夫できるゆとりが生まれ、今まで以上に楽しさを実感しています。

バレーボールは、小学生から大人まで様々な四つの団体のコーチをしています。地元女子中学生のジュニアバレー

(毎週木曜日の夜)、地元小学生のバレー教室(毎週火曜日の夜、土・日曜日のいずれか終日)、前任校の保護者から依頼されたママさんバレー(毎週土曜日の夜)、前任校卒業生から依頼された男子中学生バレー(隔週金曜日の夜)、それぞれ違った雰囲気・魅力・楽しみがあります。しかしこの二年、体力と柔軟性の急降下を感じています。今まで以上に心地よい汗を流し、それらの向上をめざしたいと思っています。



「相談室玄関に」

竹細工は、竹とんぼ、鳥やじろべえ、ペン立てを作っています。希望される方に差し上げています。とりわけ県総合教育センター一般教育相談室を訪れる親子の笑顔が製作の励みとなっています。

二つの趣味は、共に喜んでもらえることが活力源になっており、健康源にもなると信じています。

不安から自信へ

22年度入会 吉川 昭善

(元 あま・甚目寺小)

「え、どうしても行かなければならないのですか？」
「どうしても！」という上司の返事。このとき、無事に帰ってこられるのかと不安でした。

私は、現在、愛知県退職教職員互助会に勤務しています。本会では、毎年、八日間の海外研修旅行を実施しています。旅行には、添乗補助員として、また、次年度の企画に活かすために一人が随行しています。

私は、これまで飛行機を利用しての八日間の旅など国内外でしたことはなく、しかも遙か遠くの国メキシコで、時差も半日以上。さらには十二月ということで、気候も日本とは随分違います。確かに、若い頃、J・C主催の『東海青年の船』で二週間の長旅は経験しています。このときは、洋上研修中心で、時差は一時間程度でしかなく、しかも体力も十分に、食事に対する心配なども何らありませんでした。

しかし、今回は、五年前に胃の手術をし、体力にもあまり自信がなく、脂っこい食事は苦手であり、長旅に耐えられるか分かりませんでした。海外研修旅行を終えた今、とても感謝しています。数々



トゥルム遺跡とカリブ海を望む

現職校長会情報

の貴重な遺跡等を見学できたこと、食事を美味しくできたことなどありますが、何よりも、体力に自信が持てたことが一番有り難く思いました。

平成二十三年総会が、五月十一日(水)、中京大学文化市民会館で開催され、次の活動方針が採択されました。

①学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成・実施・評価・改善

②確かな学力と豊かな心、健全な体を育む教育の推進
③学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域社会との協働

④確固たる経営方針に基づく学校経営の礎となる教育条件の整備・充実
⑤安全・安心な教育環境づくりの一層の推進

⑥校長の一層の研鑽と教職員の資質・能力の向上を図る研修の充実

平成二十三年度

愛知県小中学校校長会

役員・理事一覧(敬称略)

●会長

東 坂野 重法(東桜小)

●副会長(五名)

一宮 伊串 博(神山中)

西尾 尾崎 智(一色中)

豊橋 近藤 真澄(幸小)

東 二宮 英二(富士中)

犬山 井戸 則夫(東部中)

●監査(三名)

西 丹羽 政雄(比良小)

蒲郡 清水 孝夫(中部中)

小牧 舟橋 尚女(小牧南小)

●庶務理事(六名)

瑞穂 長坂 和哉(汐路小)

西尾 寺崎 敏博(菊井中)

岡崎 加藤 幹根(白浜小)

半田 鈴木 栄二(矢作北中)

あま 加来 正晴(半田小)

東 松永 裕和(甚目寺南中)

●会計理事(六名)

東 大矢 芳久(旭丘小)

昭和 関口 大介(駒方中)

田原 花井 隆(野田小)

豊川 山田 清志(小坂井中)

一宮 木村 博彦(木曾川西小)

稲沢 仁科 正二(祖父江中)

●専門委員会・部会理事(十四名)

法制 水谷 朋和(あま・七宝中)

教育条件 藤井 憩(豊田・梅坪台中)

学校経営 酒井 宏明(みよし・北中)

進路

野澤 和彦(北・大曾根中)

保健体育 渡邊 弘義(守山・小幡小)

福祉安全 白石 悟(瑞穂・井戸田小)

給食 迫田由喜代(東海・船島小)

生徒指導 鈴木 修(北設楽・設楽中)

特別支援 浅田 謙司(東海・横須賀中)

広報 澤田 義宗(緑・鳴子小)

修学旅行 鈴木 正七(豊田・益富中)

教育課題 松尾 知之(昭和・御器所小)

東陸小 山内 雅夫(昭和・川原小)

愛知大会 溝口 哲夫(北名古屋・師勝中)

愛知大会 溝口 哲夫(北名古屋・師勝中)



計報()内は逝去された日

福島 正行先生(二十六年・二十八)

元 名古屋市立東白壁小学校

西尾 好勝先生(二十二年・八十四)

元 名古屋市立枇杷島小学校

松井 敏博先生(二十二年・八十二)

元 豊田市立石野中学校

佐藤 満政先生(二十一年・九十九)

元 半田市立成岩中学校

中島 徹先生(二十二年・九十六)

元 吉良町立津平小学校

古川美喜夫先生(二十二年・二十四)

元 大治町立大治中学校

横井 規子先生(二十二年・二十八)

元 名古屋市立天白中学校

後藤 裕美先生(二十二年・十六)

元 稲沢市立坂田小学校

※県校長会事務局連絡分

ご逝去されました皆様のご冥福をお祈りいたします。

事務局だより

執筆していた皆様には、短期間にもかかわらずご理解・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

事務局は、七月一日より、前事務局長の久保慎一が退任し、新次長として前豊川市立西部中学校校長正美が着任しました。スタッフ一同、さわやかで誠意ある対応を心掛けてまいります。

○事務局次長 井上 唯明

○事務局次長 藤澤 修一

○事務局次長 林 正美

○事務局員 加藤美津代

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目 四九の一〇

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

電話 〇五二一・二六八・一五二

FAX 〇五二一・二六八・〇七

E-mail aikoho@aei.ocn.ne.jp